

一斉学習 同時進行型

実践タイトル 動画を比較することで抱え込み跳びのポイントをつかむ

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

録画再生装置

・タイムシフト再生機能により、児童が自分の跳び方をリアルタイムで認識できる。

動画

・うまく跳べている動画とうまく跳べていない動画を電子黒板上で比較し、違いを話し合うことで、うまく跳ぶためのポイントをつかませる。

参考にしてほしいポイント

- ・「踏み切り」「着手」「空中姿勢」など、児童に、つかんでほしいポイントを意識した自作の動画を用意することで、うまく跳ぶためのポイントをつかみやすくなる。
- ・うまく跳べている動画と跳べていない動画は、ビデオカメラを同じアングルに固定して撮影しておくことで、比較しやすくなる。
- ・電子黒板を使い、動画に書き込みをしながら比較し、児童同士の話し合いを通してうまく跳ぶためのポイントがつかめる。
- ・タイムシフト再生の時間差を調整することによって、「練習」と「跳び方のチェック」の交代がスムーズに行えるようになる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 10	・準備運動をする。 ・抱え込み跳びの動画を見ることで、上手な抱え込み跳びのイメージを持つ。	・電子黒板 ・うまく跳べている動画
展開 10 40	・うまく跳べている動画とうまく跳べていない動画を比較し、違いを比べることで、「踏み切り」「着手」「空中姿勢」のポイントをつかむ。 ・タイムシフト再生で、自分の跳び方を跳んだあとすぐに確認し、跳び方の直すポイントをつかみ、めあてを持つ。 ・ポイント別に設定されている練習の場を選び、練習する。 ・直すポイントの修正ができていないか、タイムシフト再生で確認する。	・うまく跳べている動画と跳べていない動画(写真1) ・ビデオカメラ ・タイムシフト再生の動画(写真2)
まとめ 40 45	・自分のめあてが達成できたか、振り返り、カードに記入する。 ・めあてを達成できた児童の跳び方をデジタルカメラの動画で撮影しておき、紹介する。	・めあてを達成できた児童の動画(写真3)



写真1: うまく跳べている動画と跳べていない動画を電子黒板を使って比較



写真2: タイムシフト再生で自分の跳び方をチェック



写真3: めあてを達成できた児童の動画を見合う

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・うまく跳べている動画とうまく跳べていない動画を横に並べ比較することで、跳び方のポイントをつかむことが容易であった。
- ・タイムシフト再生で自分の跳び方を、跳んだあとすぐに確認することで、自分の跳び方の直すポイントをリアルタイムで具体的に捉え、自分のめあてに合った練習の場を選び、練習していた。

活用効果

評価の観点	・運動の技能	具体的変容	・自分の跳び方の直すポイントを意識して練習することで、安定した動作で抱え込み跳びができるようになった。
-------	--------	-------	---

実践の手応え

- ・児童は、動画を比較することで、うまく跳ぶためのポイントを共有し合い、タイムシフト再生で自分の跳び方を確認することで、めあてに合った練習の場を選び、意欲的に練習し、技能を高めることができた。